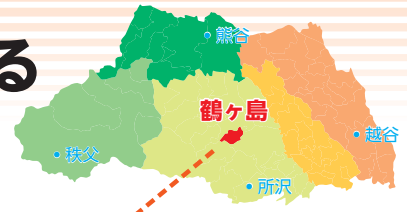


イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー⑬

鶴ヶ島市 藤縄 善朗 市長 (60歳)



新たな経済活動を誘致して、雇用機会を確保しながら産業の振興と発展に力を入れている藤縄善朗市長

当市では、2011年度からの10年計画である「第5次鶴ヶ島市総合計画」の実施に当たり、リーディングプロジェクトとして地域に働く場を確保するとともに人々が集い、憩い、交流する賑わいと活力ある町づくりを進める「水土里（みどり）の交流圏の構築」に取り組んでいます。これからは、市内にある「埼玉県農業大学校」が2015年3月末に、熊谷市内に移転することから、その跡地活用を核にして、交通の要衝にある当市の立地条件を活かし、新たな産業活動を誘致しながら雇用の機会を確保すると同時に、商工業や農業の産業を振興させることで賑わいの空間をつくりたいと考えています。

農業大学校が移転すると、約39ヘクタールという広大な用地が生まれます。圏央道のインターチェンジに接した場所で、これから土地利用をどうするか県と協議していきますが、当市としては先行して上下水道や道路などの社会インフラを整備していくこととなります。その上で、跡地の活用を図っていくことにな

りますが、単純な企業誘致にとどまらず、できれば当市を含む県西部地域全体の賑わいに波及し、将来が展望できるような未来型の企業に来てほしいと願っています。

例えば、農業大学校の跡地は自然環境に恵まれている場所ですので、環境関連の企業とか食をテーマとして、地域に密着した未来型産業というのがいいかと思います。また、跡地に近接する市の運動公園も一緒に整備する計画なので、健康をテーマとする企業の誘致も考えています。そうした未来型の企業に来て頂くことによって、地域と一緒に雇用の促進させ、地元経済を活性化し、賑わいのある水土里の交流圏づくりを進めていきたいと考えています。

一方で、市内には遊休農地が広がっている現実もあり、これを何とかして地域振興に役立てなければなりません。鶴ヶ島市は、農産物の生産地と消費地の接点に位置しています。しかし、その優位性を生かし切れていません。これからは農業生産の拡大と加工、そして流通までを一体的に取り組みをつくらせていきます。その上で、鶴ヶ島ブランドとなる特産品の開発や販売などを進め、持続的で活力ある農業振興を行っていくことにしました。もちろん、農工商連携を進めていくわけですが、最近ではその連携を象徴する取り組みが話題にもなっています。

多くのマスコミに取り上げられましたので、御存じかもしれませんが、香辛料などで知られるサフランを鶴ヶ島市の特産品にしようとする試みです。JA いるま野をはじめ城西大学や女子栄養大学、そして地元農業者に食品加工業者、さらには福祉団体も加わって行政とともに「鶴ヶ島サフラン・スーパーサポー

ターズ」という組織を立ち上げました。栽培から収穫、加工を産学官民で分担し、鶴ヶ島ブランドとして全国に広めていく計画で、遊休農地の有効活用にも一役買うことになるでしょう。現在サフランは、国内の生産量が少なく、高値で取引されています。遊休農地を活用して栽培し、特産品にできれば地域の特色となるだけでなく、地域経済にも貢献します。それだけに今後は、サフランの薬効や食品への応用など、幅広い活用の方法を考えていきたいと思っています。

「水土里の交流圏の構築」とともに、地域経済を活性化させるために力を入れている施策として、「太陽光でつくる深呼吸したい元気なまち創造事業」がスタートしました。この事業は、養命酒製造株式会社が行う市内の工場跡地の一部約4ヘクタールを活用したメガ・ソーラー発電事業に合わせ、市と養命酒製造が共同して環境教育、地域防災活動の拠点を整備していくものです。また今年3月には、この工場跡地の共同活用事業を契機として、県内の日産自動車販売会社3社との間で、環境啓発、防災対策の連携・協力に関する協定を締結したところです。

事業の概要としては、子どもたちの教育プログラムの一環として、メガ・ソーラー発電施設の見学と再生可能エネルギーの利用を体験できる環境教育施設を建設します。そこに、蓄電設備の設置と日産の電気自動車「リーフ」を配置することで、災害時には防災の拠点施設として利用できる機能を持たせたいと考えています。満タン充電したリーフ1台で、



サフランを鶴ヶ島の特産品に！と、球根の掘り起こしをする  
鶴ヶ島市サフラン・スーパーサポーターズのメンバー  
(2013年5月)

一般家庭で丸二日分の電力を賄えることから、災害による停電時には地域防災の拠点として活用することが可能となります。万一の際には避難所への電力供給を可能とするため、市内の日産ディーラー3社からリーフの派遣を頂くことや、電気自動車の普及促進を図るために協力することも協定書に含めました。

そして、エネルギーの見える化を進めるために、太陽光発電がどのようなシステムになっているのか、それをジオラマで見せる取り組みも考えています。市内にはNゲージなど鉄道模型で有名なメーカーがあります。地元企業をはじめエネルギー関係企業の協力を得て事業を進めていきたいと思っています。

最後に、市内には農業を含めて地元で起業する動きが活発になってきました。当市としても新たな起業家のために、様々な支援を講じてきているところですが、行政だけでは行き届かないところもあります。武蔵野銀行さんにも地元金融機関として、私どもと一緒にやってそうした新たなビジネスの創出のためにバックアップしてほしいと、望んでいるところです。

特に、サフランの特産化では熱意のある新規参入者への支援を強力にお願いしたい。関連会社のぶぎん地域経済研究所さんにも、今後どのような分野が鶴ヶ島市にとっての戦略産業となりうるか、地域の活性化のための助言をお願いしたいですね。今回は高校時代の同窓生で県議会議員を長らく務め、現在は入間市の発展に尽力されている田中龍夫市長にバトンを手渡します。

## 鶴ヶ島市の概要

人口(平成22年国勢調査)	69,990人
世帯数(同上)	27,727世帯
平均年齢(同上)	42.5歳
生産年齢人口比率(同上)	68.0%
面積(同上)	17.73平方キロメートル
名目市内総生産(平成22年度)	1,742億600万円
事業所数(平成22年工業統計)	64事業所
製造品出荷額等(同上)	732億7,753万円
事業所数(平成24年経済センサス)	2,267事業所
年間商品販売額(平成19年商業統計)	1,375億9,800万円